

昭和49年(1974年)

3月10日

第838号

# 時事広島

THE JIJI HIROSHIMA



## 津田小 百年 百周年

### 感動の記念式

カプセルに思い込めて  
五十年後への贈り物

津田小学校の創立百周年記念式は三月三日盛大に行なわれた。

同校は明治六年八月三日村落小学校として発足、明治六年十二月、文部省小学校教則発布に伴ない、第二十七番小学修身舎として官許を得、以来先年八月三日で百才を迎えた。

同校児童生徒三一四人、教職員二十一人の外、PTA及び且って同校に勤務した教師四十六名が参加して感激の式典を挙行了した。

式は全て百周年記念実行委員会(石川与一委員長)の手で運営された。校長式辞、実行委員長挨拶、安井町長・旧職員を代表して後藤純(廿日市町)元校長の祝辞、児童代表倉重君とPTA増田那夫会長の記念のことばで式典を終了。

祝いのつどいで、同校で百年目にして始めて制定された校歌(山崎義男作詩、森脇憲三作曲)を披露。全校生徒の呼びかけ方式による百年の歩みは、特に素晴しかった。

一方、PTAのコーラスや児童の器楽合奏、愛好者

による吟詠、舞踊など盛大くさんのプログラムに加え、児童、PTA、卒業生及一般の作品展示、文化財展示など、百周年記念にふさわしい企画がPTAや来賓の感動を呼び起した。

中でも、同校児童、教師及関係者の作品や資料を収め、五十年後、同校児童により開封される「タイムカプセル」は、未来への大きい贈りものとして百周年記念事業を象徴した。

同校で大正十一年から昭和五年まで校長をつとめたモチ池喜一郎さん(五日市町78才)は、「当時はバスもなく廿日市まで出るのに苦勞したが、町民は教育に熱心で、教師には住みよい町でした。教育振興に熱心だった天野幸太郎村長や校庭の桜の美しかった事など忘れられることは出来ません」と往年を懐かしがっていた。

(写真はタイムカプセル除幕式に集った生徒、教職員とカプセル埋藏地。右から安井町長、増田PTA会長、山崎校長、石川実行委員長)